



小見山 道

（日本大学松戸歯学部 顎口腔機能補綴学講座）

『三叉神経領域における慢性疼痛のメカニズムと対応へのヒント』

<要旨>

日本顎関節学会は、改訂された顎関節症の治療指針 2020 には、専門治療の章に「咀嚼筋痛障害、顎関節痛障害が慢性疼痛化している場合の対応」という項目があります。そこには「咀嚼筋痛障害や顎関節痛障害の痛みが、何らかの原因で長期化し、末梢性あるいは中枢性に感作が生じた場合には難治性の痛みとなり、専門治療が必要となることが多い。」と記載されています。折しも、国内の痛みに関連する学会の協働で 2021 年 6 月に「慢性疼痛診療ガイドライン」が改訂、発刊され、現在改訂作業が始まっています。腰痛などの慢性の筋・骨格性疼痛の痛みへの対応は、数年前とは完全に治療方針が変化し、より積極的な運動療法が推奨されています。さらに 2021 年 9 月には国際的に第 3 の痛みの機構分類となった‘*nociceptive pain*’の日本語訳が、「痛覚変調性疼痛」として日本痛み関連学会連合用語委員会から発表され、心理社会疼痛の概念がここに含まれていくと考えられます。今回の講演は、急性痛と慢性痛の特徴と基礎的メカニズム、三叉神経領域の痛みの経路に関する最近のトピックス、痛覚変調性疼痛を含む痛みの 3 つの機構と、慢性疼痛への対応のヒントについて概説する予定です。

<講演内容>

- I 顎関節症の痛みについて
- II 慢性疼痛について
- III 難治性の痛みへの対応について

<専門医カリキュラム>

- ・ 痛みの基本事項を説明できる
- ・ 慢性疼痛について
- ・ 難治性の痛みへの対応について

<略歴>

1989 年 日本大学松戸歯学部卒業
1990 年 日本大学松戸歯学部 総義歯補綴学講座
1998 年 日本大学 博士（歯学）
2001 年 日本大学助手（松戸歯学部・総合歯科診療学）
2002 年 日本大学講師（松戸歯学部・総合歯科診療学）
2003 年～2005 年 ベルギー王国ルーベンカトリック大学歯学部 客員教授
2011 年～日本大学准教授（松戸歯学部・顎口腔機能治療学）
2016 年～日本大学教授（松戸歯学部・顎口腔機能治療学，2021 年～クラウンブリッジ補綴学）
日本大学松戸歯学部付属病院 顎関節咬合科科長

代表的所属学会：

日本顎関節学会（理事長、指導医）
日本口腔顔面痛学会（理事長、指導医）
日本補綴歯科学会（副理事長、指導医）、日本疼痛学会（代議員）
日本顎口腔機能学会（副会長）、日本歯科心身医学会（評議員）
International Association of Dental Research (Past President for Neuroscience Group)
Asian Academy of Craniomandibular Disorders (Council member)
International Association for the Study of Pain



白田 頌

（慶應義塾大学 医学部 歯科・口腔外科学教室）

『一般臨床でこそ必要な慢性疼痛への理解と対応 ～顎関節症をこじらせないために～』

<要旨>

慢性疼痛は、ICOP および IASP の定義では「3 か月以上持続し、組織損傷の治癒過程を超えて痛みが続く状態」とされている。しかし、顎関節症における慢性疼痛には、中枢性感作を背景に持つ本来の慢性痛に加え、適切な診断や治療が行われずに長期化した医原性の慢性痛も存在する。むしろ、われわれ歯科医師が対応可能であり、対応すべきはこの領域である。本講演では、慢性疼痛の悪循環モデルを示し、診断の遅れや誤治療が慢性化を助長するメカニズムを整理する。さらに、慢性痛の悪循環に陥らないために何ができるかを考え、日本顎関節学会の治療指針に基づいた評価と治療を実践することの重要性を解説する。また、非薬物療法（運動療法・認知行動的アプローチなど）と薬物療法を併用した実践的対応を紹介し、脳の能動的感覚制御の視点から、痛みを「こじらせない」ための早期介入の意義を論じる。

<講演内容>

- I 慢性疼痛の基礎理解と慢性化のメカニズム
 - 1) 痛みの悪循環モデルと慢性化のメカニズム
 - 2) 適切な診断と早期治療の重要性
- II 顎関節症における慢性疼痛への実践的対応
 - 1) 顎関節症治療指針に基づく評価と対応
 - 2) 非薬物療法・薬物療法の併用による実践的対応
- III 慢性疼痛を「こじらせない」ための視点
 - 1) 脳の能動的感覚制御の理解
 - 2) 一般臨床での早期介入のポイント

<専門医カリキュラム>

- ・ 痛みの基本事項を説明できる
- ・ 顎関節症の発症メカニズムと症候，継発する病態を説明できる
- ・ 各病態に対し治療・管理目標を設定できる
- ・ 理学療法を行える
- ・ 薬物療法を行える
- ・ 心身医学・精神医学的な因子を有する患者への対応ができる

<略歴>

- 2006 年 東京歯科大学歯学部卒業
慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室入局
- 2008 年 多摩北部医療センター歯科口腔外科医員
- 2015 年 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 助教
顎関節障害外来・口腔顔面痛外来担当責任者，睡眠センター

<資格>

- 日本顎関節学会：専門医、施設指導医、教育検討委員会副委員長
- 日本補綴歯科学会：専門医
- 日本口腔顔面痛学会：専門医、理事、評議員、ITC 活用委員会委員長
- 日本いたみ財団：いたみ専門医
- 日本老年歯科医学会：認定医

<その他>

- 2018 年～ セルフケア指導アプリ「慶應いたみケア」
- 2021 年～ 歯科医師向け診療補助ツール「いたみ診療お助け LINE」
- 2021 年～ 日本口腔顔面痛学会発 Web 学習アプリ「アプリで学ぶ口腔顔面痛」
- 2025 年～ 一般向けセルフケア指導アプリ「新しいたみケア」



渡邊 友希

昭和医科大学歯学部 歯科補綴学講座 顎関節症治療学部門
昭和医科大学歯科病院 顎関節症治療科 兼任講師

『慢性疼痛のための医療面接、コミュニケーションスキル』

<要旨>

顎関節症の慢性疼痛患者は、長期間の痛み体験に加え、過去の医療対応による心理的負荷や不信感を抱えていることが多い。このため単なる診断・治療説明では充分とはいえず、医療面接やコミュニケーションの質が治療成果や信頼関係形成に直結する。本講演では、慢性疼痛患者の心理・行動的特徴を整理し、顎関節症診療に応用可能な医療面接の基本構造や、共感的傾聴、安心感の提供、自己効力感の強化など具体的スキルを解説する。参加者が日常診療で即実践できる手法を示し、慢性疼痛患者に寄り添う診療の重要性を再確認することを目的とする。

<講演内容>

- I 慢性顎関節症患者の特徴と心理的背景
- II 慢性疼痛における医療面接の基本構造
- III 慢性顎関節症患者に有効な共感的コミュニケーションスキル

<専門医カリキュラム>

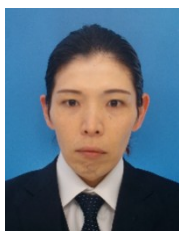
- ・医療面接を実施できる
- ・心身医学・精神医学的診察の必要性を説明できる
- ・心身医学・精神医学的な因子を有する患者への対応ができる

<略歴>

1996 年 昭和大学歯学部 卒業
2000 年 昭和大学歯学部 第一口腔外科 大学院卒業
2000 年～2004 年 昭和大学歯学部 第一口腔外科 員外助手
2008 年～ 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座顎関節症治療学部門 兼任講師
2020 年～ 東海大学医学部付属病院歯科口腔外科 非常勤医師（口腔顔面痛外来）兼任
2013 年～2024 年 放送大学教養学部教養学科(心理と教育コース)全科履修生
2024 年～昭和大学歯学部 歯科補綴学講座 顎関節症治療学部門 兼任講師

代表的所属学会等：

日本顎関節学会 専門医（学術委員、診療ガイドライン作成委員）
日本口腔顔面痛学会 専門医、指導医、評議員（セミナー企画運営委員、痛み専門医療者資格審査委員）
日本歯科心身医学会 代議員
日本慢性疼痛学会 専門歯科医
日本いたみ財団 いたみ専門医
日本頭痛学会
DC/TMD Certification



佐藤 仁

(昭和医科大学 歯学部 口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門)

『慢性疼痛を生じる顎関節疾患の鑑別』

<要旨>

顎口腔顔面領域で痛みを生じる疾患は顎関節症以外にも多くの疾患が存在し、日本顎関節学会では「顎関節症と鑑別を要する疾患あるいは障害」、「顎関節・咀嚼筋の疾患あるいは障害」をホームページ上で公開している。顎関節症の診断には類似した症候を呈するこれらの疾患を除外するプロセスが不可欠である。本公演では演者が実際に臨床上で遭遇し、顎関節症との鑑別に苦慮した症例を提示する。

<講演内容>

- I 顎関節症と鑑別を要する疾患あるいは障害
- II 関節・咀嚼筋の疾患あるいは障害

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症以外の顎関節疾患と鑑別できる
- ・顎関節症類似の臨床症状を呈する疾患と鑑別できる

<略歴>

2008 年 昭和大学歯学部卒業
2008 年～2016 年 慶應義塾大学 医学部 歯科・口腔外科学教室
2010 年～2014 年 慶應義塾大学 大学院 医学研究科 博士課程
2012 年～2013 年 デンマーク オーフス大学 歯学部 臨床生理学教室 客員研究員
2012 年～2014 年 学術振興会 特別研究員 DC2
2014 年～2016 年 川崎市立川崎病院 歯科口腔外科 副医長
2016 年～2019 年 昭和大学 歯学部 口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門 助教
2018 年 9-10 月 ドイツ エッセン大学付属病院 顎顔面口腔外科 AOCMF フェロー
2019 年～2021 年 昭和大学 口腔外科学講座 口腔腫瘍外科学部門 講師
2019 年～現在 慶應義塾大学 医学部 歯科・口腔外科学教室 非常勤講師
2021 年～現在 昭和医科大学 歯学部 口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門 講師

代表的所属学会等：

日本顎関節学会（専門医・指導医）
日本口腔外科学会（専門医・指導医、代議員）
日本口腔顔面痛学会（指導医、評議員）
日本顎顔面インプラント学会（専門医）
日本顎変形症学会（専門医）
国際口腔顎顔面外科専門医 (FIBCSOMS)
日本いたみ財団 いたみ専門医 インфекションコントロールドクター



村岡 渡

（川崎市立井田病院 顎関節・口腔顔面痛外来）

『慢性疼痛を生じた顎関節症への対応(症例提示を中心に)』

<要旨>

咀嚼筋痛障害、顎関節痛障害が慢性疼痛化している場合、痛みの長期化に伴い末梢性あるいは中枢性に感作が生じていることが想定される。2021 年に Kosek らは、3 か月以上継続する筋骨格系疼痛において痛覚変調性疼痛を考慮したグレーディングシステム案を発表した。顎関節症における慢性疼痛は筋骨格系疼痛の一つであり、これらの概念は慢性の咀嚼筋痛障害などにも適応可能であると考えられる。

また、指針においても一つ、心身医学・精神医学的な対応の重要性が述べられている。患者の解釈モデル、痛みへのとらわれ、医療への不信感、過活動/過剰適応などのさまざまな問題点を考慮しながら対応を検討していく必要があると思われる。

本講演会で解説されたさまざまな慢性疼痛への対応を踏まえて、これらに準じたと考えられる症例を提示し、慢性疼痛を伴う顎関節症に対する理解を深められればと考えている。

<講演内容>

- I 顎関節症の病態と診断
- II 顎関節症の慢性疼痛への対応
- III 枢感作・痛覚変調性疼痛の臨床における対応
- IV 心身医学的対応の臨床的対応

<専門医カリキュラム>

- ・顎関節症の診断および病態診断ができる
- ・顎関節症の病態を説明できる
- ・心身医学・精神医学の基本事項を説明できる
- ・各病態に対し治療・管理目標を設定できる

<略歴>

1997 年 鶴見大学歯学部卒業、慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科研修医
1999 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科専修医、国立栃木病院歯科口腔外科医員
2001 年 清水市立病院口腔外科医員
2003 年 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科助手
2006 年 日野市立病院歯科口腔外科主任医員
2009 年 日野市立病院歯科口腔外科医長
2012 年 川崎市立井田病院歯科口腔外科医長
慶應義塾大学医学部客員講師（歯科・口腔外科学）
2017 年 川崎市立井田病院歯科口腔外科部長
慶應義塾大学医学部非常勤講師（歯科・口腔外科学）
2025 年 恵比寿あごと歯のクリニック開設/院長
川崎市立井田病院歯科口腔外科顎関節・口腔顔面痛外来担当
慶應義塾大学病院歯科・口腔外科顎関節・口腔顔面痛外来担当

代表的所属学会等：

日本顎関節学会 認定歯科顎関節症専門医、指導医、理事
日本口腔顔面痛学会 専門医・指導医、常務理事
日本口腔外科学会 認定口腔外科専門医、代議員
Diplomate of American Board of Orofacial Pain（米国口腔顔面痛学会ボード認定専門医）
Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders, Councilor
医学博士（慶應義塾大学）